

## カザグルマの分布について

菊田 穰

### はじめに

前報、(菊田2000)では「自然(生物)環境保全と保護」と言うタイトルで北摂におけるカザグルマの生育状況を報告した。今回は兵庫県下及び全国のカザグルマ自生分布の状況について、私の半世紀に近いカザグルマとの付き合いの中から得た情報と、私が出掛けて確認した自生地の状況を報告する。

カザグルマ(*Clematis patens* Morr. et Decne.)キンポウゲ科センニンソウ属の蔓生多年生植物で、全国版レッドデータブック(2000)では絶滅危惧Ⅱ類に、兵庫県版レッドデータブック(2003)ではAランクに指定されている。

### 兵庫県下の自生地

カザグルマの自生地についての情報は、「兵庫県立人と自然の博物館」の永吉氏、市立西宮東高校の阪口氏からも頂いたが、私が所属する日本クレマチス協会、及び関西クレマチス協会からの情報が多い。

まず兵庫県下では北摂の自生地について市町ごとにまとめると、神戸市北区道場町で3カ所、宝塚市西谷地区で4カ所、三田市で20カ所確認できた。北摂以外で多くの自生地があるのは東播地域で、第一が加東郡社町である。社町には永吉氏と共に阪口氏の案内で確認した場所が4カ所あり、他に1カ所あると聞く。その内、藤田地区は農業用ため池の上手の湿地であり、下久米地区は丘陵の下部水田との境で、他の2カ所は川の縁の山側であった。いずれも西日が当たらず、伏流水が浸み出ている場所という共通した環境である。この環境は全国のカザグルマの自生地に共通していると言える。次は小野市黍田地区のJR加古川線の沿線で、やはり岩

山の表面を水が流れている所であった。他に三木市にも1カ所自生地があるが、「三木自然愛好研究会」から種子を頂いただけで、自生地については確認していない。

北摂。西播以外にも自生地はあるようだが、私がクレマチス協会を通して苗を入手した所は宍粟郡山崎町と出石郡出石町の2カ所である。上記カザグルマの自生地の花の色は出石町の花を除いて全部白色であるが、唯一出石町の花は薄い青紫である(写真1)。出石町は町花を「てっせん」に指定していて、このカザグルマの自生地発見がその根拠のひとつにもなったようだが、今はこの出石町の自生地は消滅してしまったようである。

### 兵庫県以外(全国)の自生地

前報にも報告したが、全国の自生地は、浜田ら(1975)によると25都府県、猪野・中村(1986)によると27都府県、全国版レッドデータブック(環境庁 2000)によると26都県に自生していると言う。

図1は浜田ら(1975)が国立科学博物館、東京大学、京都大学の標本庫に所蔵されている1883~1962年の標本によって調べたものを地図に表したものである。



図1 カザグルマの分布図

以下に、私を得た情報を北から順に列記する。

	自生地	花色	備考
岩手県	1 和賀郡東和町	白～青紫	確認済
福島県	2 不明	白・青紫	苗入手
栃木県	3 日光市	淡いピンク	種子入手
	4 下都賀郡間々田町	青紫	苗入手
群馬県	5 吾妻郡川原湯温泉	白～青紫	種子入手
	6 勢多郡大間々町	青紫	苗入手
	7 赤城山	白・青紫	同上
東京都	8 青梅市	白	同上
千葉県	9 千葉市	青紫	同上
	10 船橋市	白	種子入手
長野県	11 不明	白～青紫	同上
山梨県	12 都留市	不明	同上
静岡県	13 引佐郡引佐町金指	淡いピンク	同上
岐阜県	14 土岐市鶴里町	白	確認済
	15 恵那市阿木	不明	種子入手
愛知県	16 豊橋市葦毛湿原	白	種子入手
三重県	17 伊勢市朝熊山	青紫	確認済
	18 鈴鹿市	白	苗入手
滋賀県	19 彦根市荒神山下	白	確認済
奈良県	20 宇陀郡大宇陀町小附	青紫	同上
	21 榛原町比布	白～青紫	同上
大阪府	22 豊能郡能勢町	青紫	同上
岡山県	23 津山市佐良山	青紫	同上
	24 高梁市津川	不明	同上
	25 総社市槇谷	青紫	苗入手
広島県	26 高田郡美土里町	青紫	同上
	27 七塚原	青紫	同上
高知県	28 高岡郡日高町	白～青紫	確認済

以上は、クレマチス協会の知人から種子や苗を入手したものと、情報をもとに私が確認するために自生地に出向き、蔓や種子を採取してきて挿し木や実生により苗をつくり、一度は栽培したものである。

次に知人からの聞き取りや、文献をもとにした情報からの自生地を列記する。

	自生地	備考
秋田県	1 仙北郡協和町荒川	関西クレマチス協会の展示を見学に来た人から聞く。
神奈川県	2 横浜市保土ヶ谷区	栗山・相原「クレマチス花」より
愛知県	3 名古屋守山区	安原氏より（船橋市自生地発見者）
三重県	4 度会郡南勢町五ヶ所浦	猪野・中村（1986）「クレマチス」より
奈良県	5 宇陀郡榛原町八滝	滝谷クレマチス園・日下志氏より
岡山県	6 高梁市さよ谷	藤井氏（クレマチス切り花栽培家）
広島県	7 広島市安佐北区	栗山・相原（2003）「クレマチス花」より
	8 東広島市	同上
	9 高田郡古田町	同上
	10 比婆郡高野町	同上
大分県	11 不明	初島・佐藤（1994）「九州の野の花」より
宮崎県	12 児湯郡新富町	兵庫県立人と自然の博物館が調査
熊本県	13 八代市	同上

以上の情報をまとめると全国のカザグルマの自生個所は、兵庫県も含めて24都府県になる。また、これらの情報を図2に示した。私が確認した所は○印、種子や苗を入手して栽培した自生地は●印、聞き取りや文献で得た場所は△印で示した。

以上の自生地で見られた花などの特徴を次に紹介する。

岩手県東和町の自生地は北限に近いと思われるが、

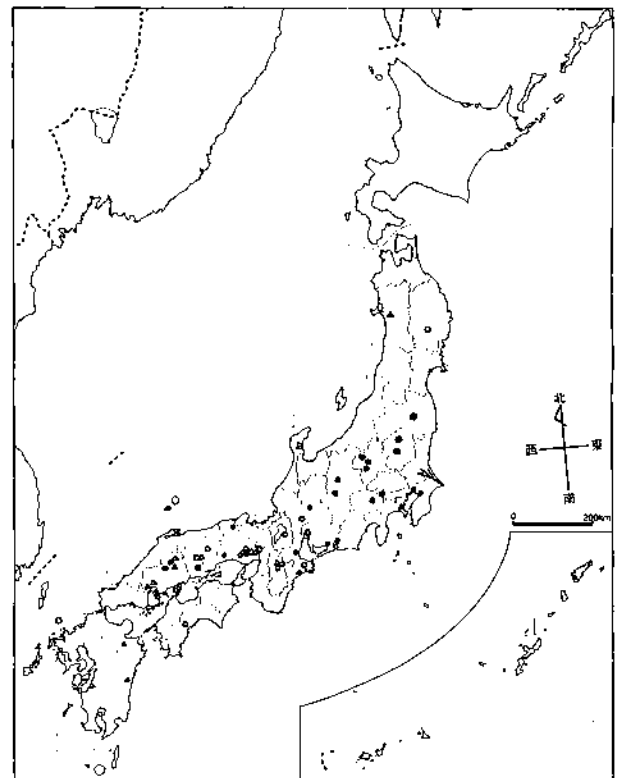


図2 カザグルマ自生地

花崗岩の砂礫の山肌にササとモミジイチゴなどイバラ状の植物が生い茂る斜面に生え、花色は有色のものが多く（写真2）、その他に花色の薄いものや白色、弁の縁が濃い色の覆輪のものなどがあつた。

群馬県の川原湯に自生しているものには、先に種子を入手して育てたのは淡いピンクの花色を示したが、後から苗を入手したのは八重咲きの

花であつた（写真3）。

国の天然記念物に指定されている奈良県の大宇陀のもの（写真4）は淡い青紫を示していたが、近くの榛原町比布にはいろいろな色のものが咲いていた（写真5）。

高知県の日高町妹背峠から本村へ続く2kmほどの道路沿いに流れ落ちる溪流沿いに散らばる自生地には弁の裏側に赤い筋があるものが多く（写

真6・7）、花色は青紫からピンク・白など変化に言んでいた。

最後にカザグルマは通常8弁である。しかし生育条件により7弁や6弁を示すものもある。ところが、三重県伊勢市の伊勢神宮内宮裏の朝熊山のもののは小型の6弁のものであつた。自宅で栽培すると株元から少し伸びた蔓にすぐ蕾をつけ花が咲き衰弱して枯れてしまつた（写真8）。

三田市をはじめ兵庫県内自生地のカザグルマの花色は白色のものが多く、花の形は同じ自生地内でも花弁の幅が広く弁が重なっているもの、細長く弁と弁の間に透き間のあるものなど株ごとに個性がある。

また、日光の自生地を調査した「日本クレマチス協会」の会長、竹内氏の話では自生地へ向かう途中の農家の庭先には色の濃いカザグルマが植えられているが、自生地には白や薄い色のものしか生えていなかったそうである。これは、自生地から人が栽培目的で持ち帰る場合、有色のものから採集するので白色や薄い色のものしか残っていないのではないかと推定されていた。私もその可能性はあると思う。

## 最後に

私が出た情報意外に全目的には、まだ幾つかの府県に自生地があるだろう。最近、新潟県の糸魚川周辺でカザグルマが茂り過ぎて邪魔になり刈られていた話を聞いた。また兵庫県内にも西脇市にあると聞いているが、他にも何か所かは自生地があるものと信じる。もしこの報告以外の自生地の情報をお持ちの方は、私か「人と自然の博物館」の永吉氏まで連絡を願いたい。

## 引用文献

- 浜田秀男・田村道夫・岡田博.1975.三田のカザグルマ自生地.45pp.日本住宅公団関西支社.大阪.
- 兵庫県.2003.改訂.兵庫の貴重な自然—兵庫県版レッドデータブック2003.382pp.兵庫県県民生活部環境局自然環境保全課.
- 猪野泰三・中村久子.1986.クレマチス.151pp.日本テレビ放送網株式会社.東京.
- 栗山知美・相原佳暉.2003.Clematisflowersクレマチス花・写真集.192pp.株式会社碧天舎.東京.
- 初島住彦・佐藤武之.1994.九州の野の花.346pp.西日本新聞社.福岡.
- 菊田穰.1999.自然(生物)環境保護と保全(カザグルマの生育状況から).兵庫生物,11:265-267.
- 環境庁(編)2000.改訂 日本の絶滅のおそれのある野生生物.財団法人自然環境研究センター.東京.



写真 1



写真 5



写真 2



写真 6



写真 3



写真 7



写真 4



写真 8